

株式会社エージーピー 2019年度第1四半期決算説明資料



空を想い、技術を極め、環境社会を創る。

2019.7.30

企業理念

AGPグループは、技術力を極め、環境社会に貢献します。

- ・ 環境に優しく、安全で豊かな社会の実現に貢献します
- ・ お客様に選ばれる技術・サービスを誠実に提供し企業価値を高めます
- ・ 燃える挑戦心を持った社員とともに成長します

長期ビジョン2025(骨子)

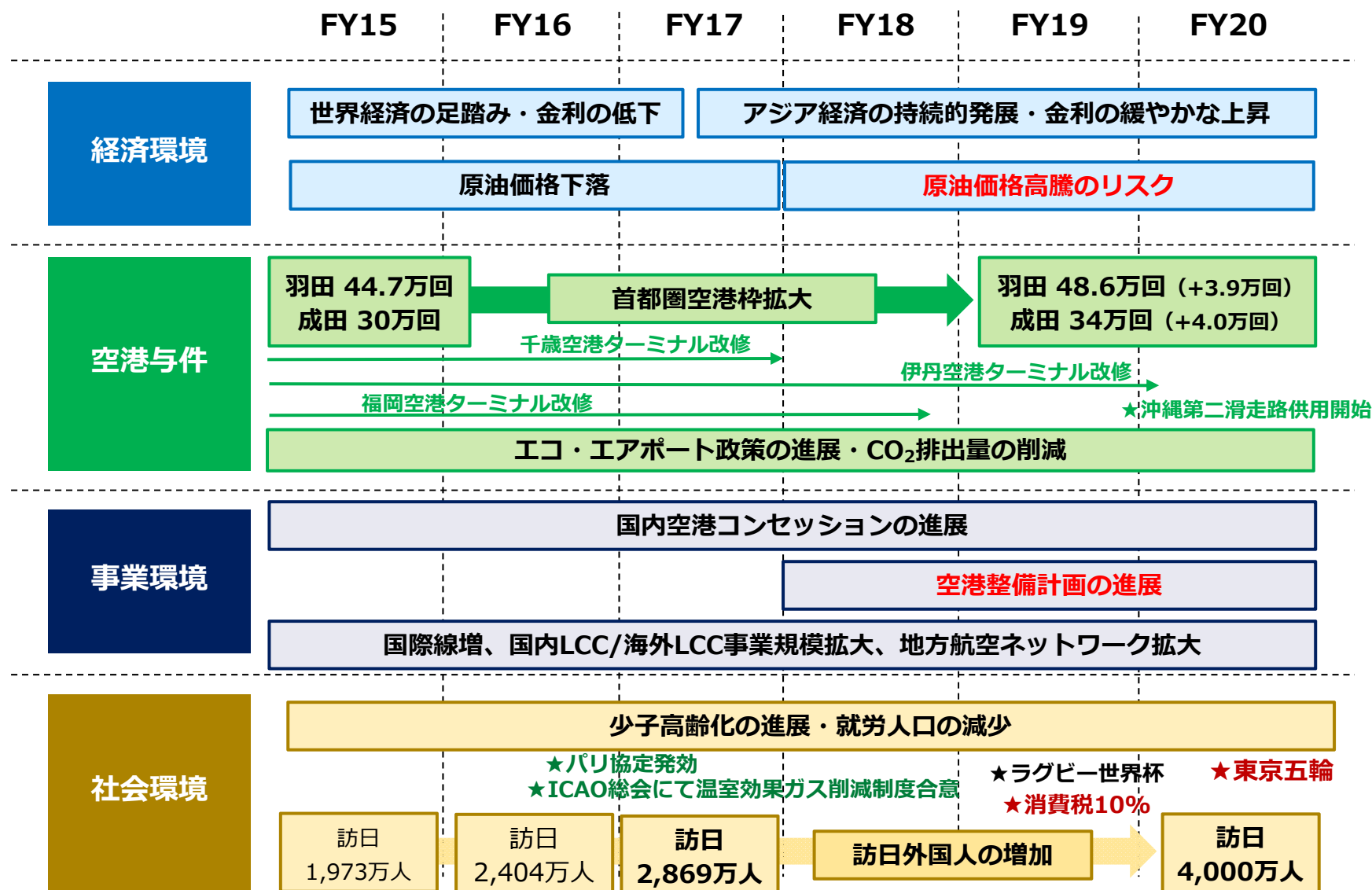
(2014.12.25策定)

AGPグループは、高い技術力と環境社会への貢献によって、空港インフラ機能を担う信頼される企業になるとともに、空港の安全を守るために培われた技術を日本中の街へ、さらには海外へとお届けします。これにより、今後10年間で

- ・ 売上200億円、営業利益率10%以上を安定的に達成できる企業になります
- ・ 空港外の売上比率3割以上を目指します
- ・ エコ・エアポートの実現を通してGPU利用を促進することにより、主要空港のCO2排出量を13.5万トン削減し、地球の温暖化防止に貢献します

(注) GPU : Ground Power Unit (地上動力供給装置)

当社を取り巻く状況



2019年度第1四半期業績概要

Executive Summary



- 2019年度第1四半期業績は、対前年では増収減益。中部空港において動力事業開始の効果もあり動力事業は好調であった一方で整備事業は別件工事が減少したが全体では増収となった。営業費用は人件費の増等により、増収以上に費用が増加し、営業利益では減益となった。
- 対計画では、2019年度第1四半期の売上は未達であったものの、利益は若干上回る結果であり、**通期業績は期初の業績見通しを据え置き。**
- 自己資本比率は60%を超え一時的に高止まり。

2019年度第1四半期業績サマリー



連結損益計算書

対前年同期比

(単位：百万円)

	2018年度 1Q実績	2019年度 1Q実績	増減額
営業収益	3,034	3,051	+16
営業費用	2,801	2,911	+110
営業利益	233	139	▲93
営業利益率 (%)	7.7%	4.6%	▲3.1pt
経常利益	228	148	▲79
四半期純利益 ¹	93	98	+5

営業収益内訳²

(単位：百万円)

	2018年度 1Q実績	2019年度 1Q実績	増減額
動力事業	1,330	1,452	+121
整備事業	768	716	▲51
施設事業	446	453	+7
セキュリティ事業	146	144	▲1
フードシステム	27	22	▲4
新規事業	134	147	+13
G S E等販売	181	112	▲68
合計	3,034	3,051	+16

連結貸借対照表

対前期末比

(単位：百万円)

	2018年度 期末	2019年度 1Q実績	増減額
総資産	13,675	13,141	▲534
有利子負債残高	558	467	▲91
自己資本	9,123	9,085	▲37
自己資本比率 (%)	66.7%	69.1%	+2.4pt
ROE (%)	10.0%	-	-

第1四半期時点では、対前年で増収減益。主管事業である動力事業が前年同期比大幅増収となっている。課題が残るものの、計画対比では想定範囲内。

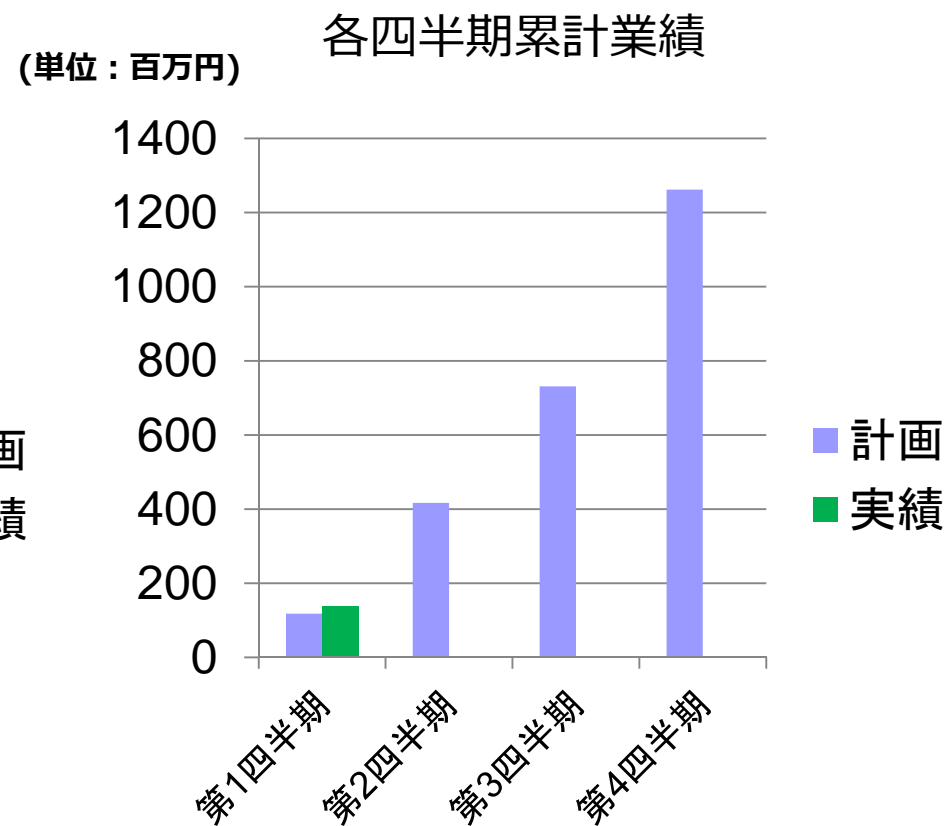
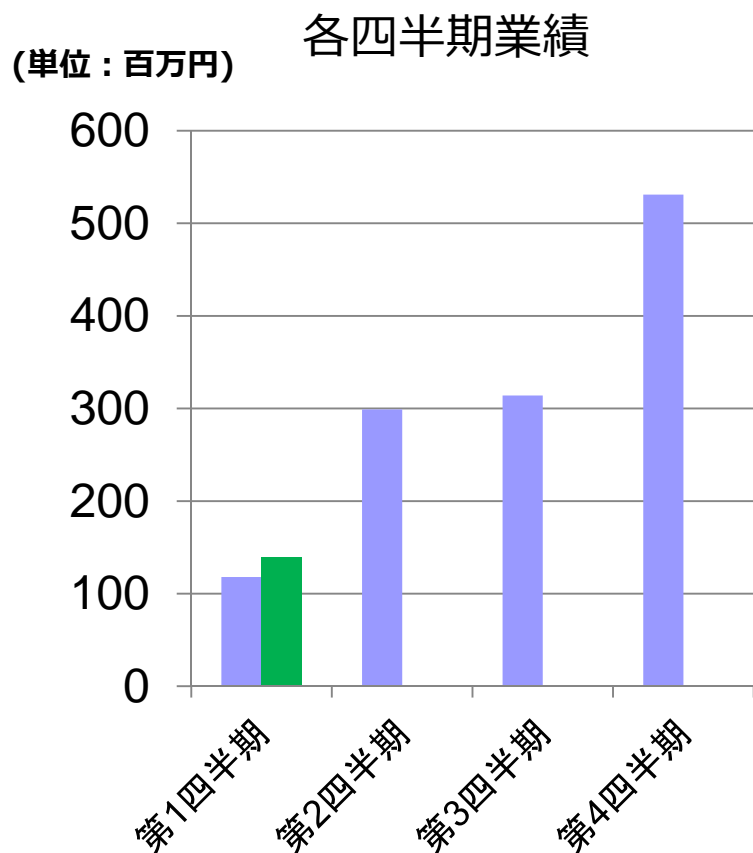
自己資本比率は60%超 (50%以上の確保が中期目標)

1 四半期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益

2 営業収益の事業別内訳は決算短信の報告セグメント別収入を組み替えて表示
制度会計では整備事業と施設事業を合わせて整備事業セグメント、セキュリティ事業・フードシステム事業・新規事業を合わせて付帯事業セグメントとしている

四半期営業利益の対計画進捗

営業利益段階で計画を達成しており、利益計画の進捗は順調。
(例年とおりでであるが、後半に利益が積みあがる計画)

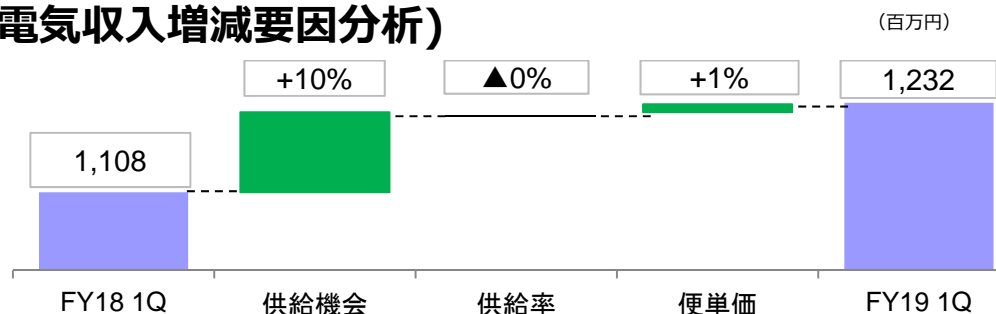


対前年電気収入増減要因分析

【動力事業】

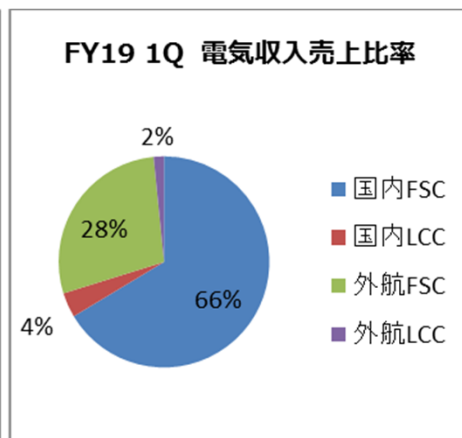
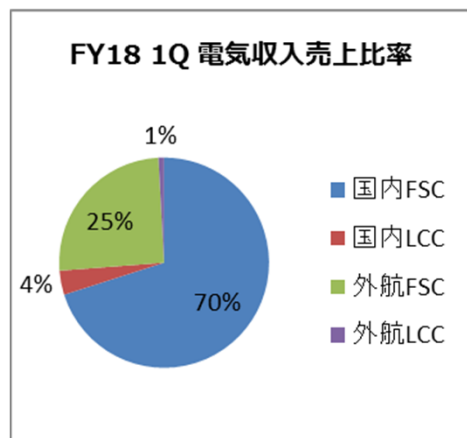


(対前年 動力電気収入増減要因分析)



FY18/FY19 1Q 電気収入比較【NGOを含む】

	電気 売上 (百万円)				供給機会 対前年比	供給率 対前年比	便単価 対前年比
	FY18 1Q	FY19 1Q	差異	対前年比			
国内FSC	776	818	41	105.3%	106.4%	100.0%	99.0%
国内LCC	41	47	6	113.7%	111.8%	101.2%	100.4%
外航FSC	281	348	67	123.8%	119.5%	100.9%	102.8%
外航LCC	9	19	10	205.7%	128.9%	136.0%	117.3%
全体	1,108	1,232	124	111.2%	110.2%	99.8%	101.2%



【FY18 1Q/FY19 1Q要因分析】

2018年10月1日より中部国際空港の事業移管を受け、中部国際空港における動力事業を開始したことで供給機会が大きく増えている。

またA350や787を含む機種種の若干の大型化により電気収入の伸びとなった。

2Q以降は、供給率の低い外航FSCの取込み等により供給率の向上を目指す。

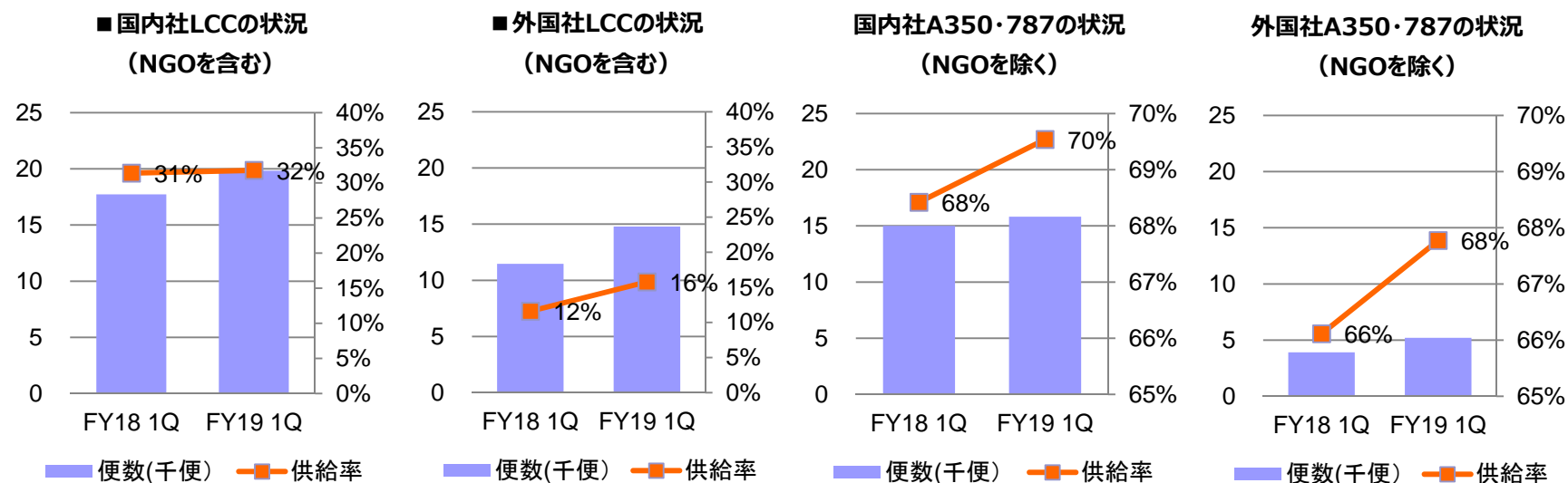
供給率向上に向けた施策

【動力事業】



■ 供給率向上に向けた取り組み実績

- A350・787取込みに向けた180kVA化工事
- 供給率向上に向けた割引提案
- 使用実績によるコストメリットや二酸化炭素削減効果を使用しての営業活動
- 空調を有効活用した営業活動（暑い・寒いに対応するきめ細かい温度管理等）
- 電源ニーズに対応した移動式電源車のリース事業の提案



空港外案件の拡大

【整備・付帯事業】



➤ 整備事業における空港外案件の拡大

	FY18 Q1	FY19 Q1
空港内売上	628	513
空港外売上	140	203

*空港内売上は空港会社、空港ビル、航空会社からの受注

■ 主な空港外案件

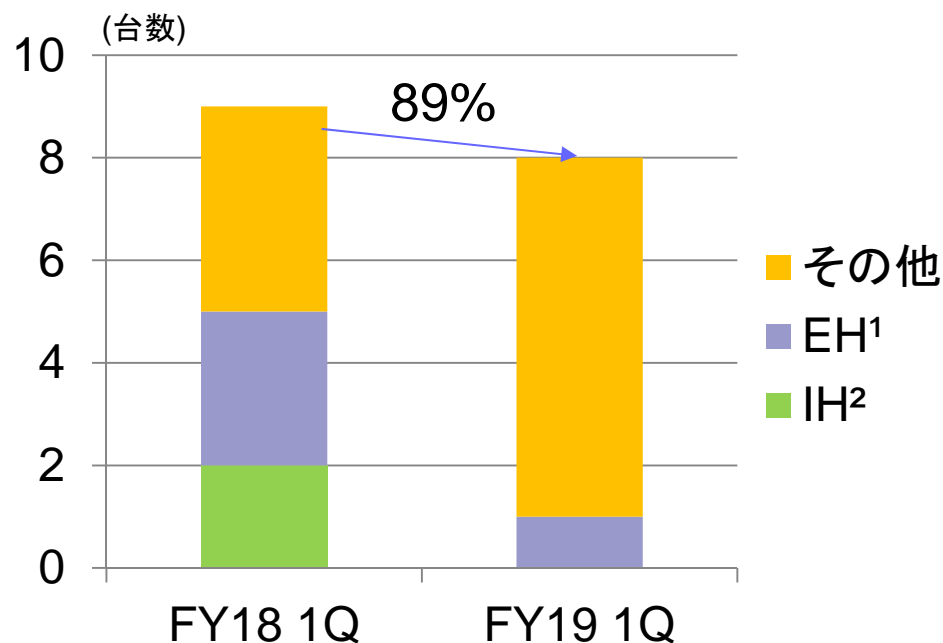
- 埼玉 物流システム施工管理業務
- 埼玉 物流システム保守点検
- 広島 物流システム保守点検
- 福岡 物流システム保守点検
- 名古屋 物流センター夜間立会業務
- 大阪 物流システム点検
- 沖縄 ロジスティクスコンベヤ工事

➤ セキュリティ事業における取扱機器台数の拡大

	FY18期末		FY19 Q1	
	空港内	空港外	空港内	空港外
X線検査装置	166	137	163	158
金属探知機	134	41	140	44
爆発物検査装置	181	109	187	112
その他	58	0	61	0
合計	539	287	551	314

フードカート販売状況

【付帯事業】



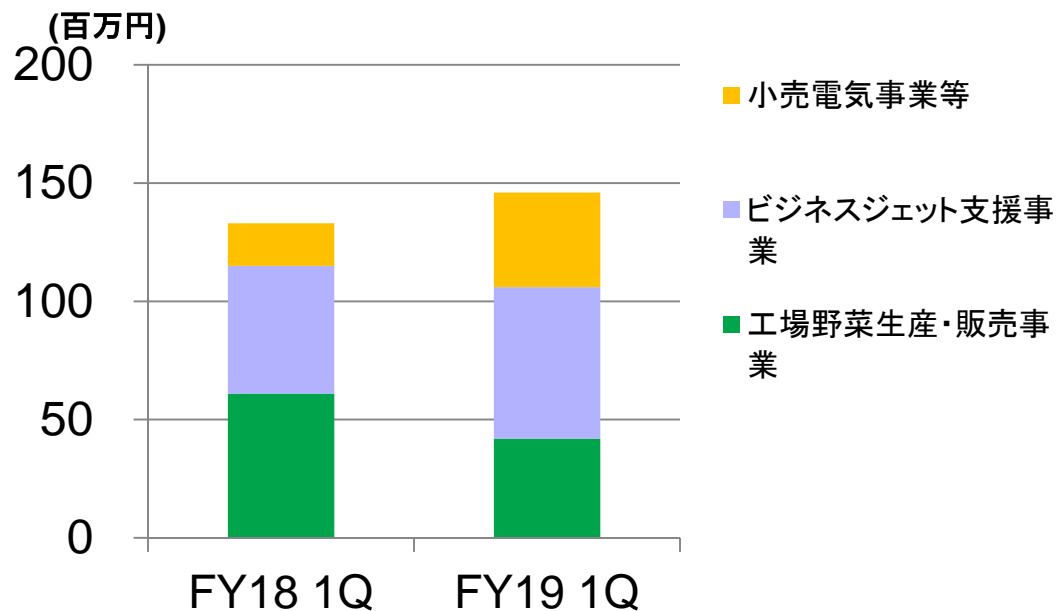
2019年度第1四半期のフードカート販売台数は、再加熱、その他カートとも小口の受注であり、対前年と比較しても若干減少であるものの、これは計画通り。

(件数/台数)	FY18 1Q	FY19 1Q	増減	備考
病院 (内リピート案件)	2件/4台 (1件/1台)	0件/0台 (0件/0台)	▲2件/▲4台 (▲1件/▲1台)	
病院以外 (内リピート案件)	3件/5台 (0件/0台)	2件/8台 (2件/8台)	▲1件/+3台 (+2件/+8台)	
合計 (内リピート案件)	5件/9台 (1件/1台)	2件/8台 (2件/8台)	▲3件/▲1台 (+1件/+7台)	

1 EH : ヒーター加熱でチルド帯での保冷機能を備えた再加熱カート
 2 IH : 電磁誘導加熱(Induction Heating)技術を応用したチルド庫対応再加熱カート

新規事業売上高

【付帯事業】



BJ支援実績	FY18 1Q	FY19 1Q
定期駐機契約数	5機	5機
臨時(SPOT)駐機	14機	16機
クリーニングサービス	6機/9回	7機/8回
トローリングサービス	29機/89回	37機/102回
N2供給サービス	4機/6回	4機/10回
O2供給サービス	—	2機/3回
ウォーターサービス	—	3機/3回
ラバトリーサービス	—	3機/3回

レタス販売実績	FY18 1Q	FY19 1Q
業務用	33,400kg	22,457kg
店舗販売	51,668袋	39,023袋



小売電気販売状況

種別	契約合意 件数		見積完了 件数		見積依頼 件数	
	FY18期末	FY19 1Q	FY18期末	FY19 1Q	FY18期末	FY19 1Q
高圧	71	72	550	671	706	777
低圧	1,065	1,054	1,950	2,036	2,469	2,740



第1四半期のTOPICS



- 【4月】 本社業務棚卸と組織改正を行い、現場配置人員の増員を実施。
- 【5月】 タイ人技術者をK I Xで活用トライアルを開始
- 【6月】 G 2 0においてウォークスルー型危険物検査装置 Evolve Edgeを導入

その他

2019年度業績見通し



連結損益計算書

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度 計画	増減額
売上高	13,818	14,800	+981
営業費用	12,462	13,500	+1,038
営業利益	1,356	1,300	▲56
営業利益率 (%)	9.8%	8.8%	▲1.0pt
経常利益	1,352	1,250	▲102
当期純利益 ¹	877	770	▲107

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度 計画	増減額
総資産	13,675	15,158	+1,483
有利子負債残高	558	735	+177
自己資本	9,123	9,518	+395
自己資本比率 (%)	66.7%	62.8%	▲3.9pt
ROE (%) ²	10.0%	8.3%	▲1.7pt

期中改善による営業利益率10%、ROE10%の達成を目指す

営業収益内訳³

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度 計画	増減額
動力事業	5,475	5,670	+195
整備事業	3,925	3,920	▲5
施設事業	2,240	2,140	▲100
セキュリティ事業	608	570	▲38
フードシステム 事業	453	500	+47
新規事業	558	750	+192
GSE等販売 事業	556	1,250	+694
合計	13,818	14,800	+981

台風復旧のリバウンドがあるものの、事業環境が良好な既存事業の基盤を強化しつつ、成長戦略の加速を両立させ、新規事業、GSE等販売を拡大し売上高148億円を計画。

¹ 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

² (当期純利益*) / (期首・期末平均自己資本)

* 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

環境への取り組み実績

CO₂ 排出量の削減

(単位 : t-CO₂)

(t-CO ₂)	FY18 削減実績	FY19	
		削減目標	1Q実績
CO ₂ 削減量 *1	316,887	329,000	85,398

*1 GPUの利用によるAPUからのCO₂排出削減量
対象空港 : CTS・NRT・HND・NGO・ITM・KIX・UKB・HIJ・FUK・OKA

エコ・エアポート活動 取り組み実績 (全支社・支店)

	FY17 活動実績	FY18 活動実績	FY19 1Q実績
活動項目 件数 *2	59 件	96 件	28件

*2 1つの活動項目を1件とカウント (FY18から清掃活動は1回/1件とカウント)

環境への取り組み 事例紹介



エコ・エアポート活動

※「エプロン清掃」と「エコドライブ」は、全支社・支店 実施項目



CTS エプロンクリーン活動



NRT エコドライブキャンペーン参加



NRT 空港周辺道路美化活動



ITM ごみゼロキャンペーン参加



KIX ごみゼロキャンペーン参加



NGO 空港クリーンアップ大会参加



AGPO 会社周辺クリーン活動



本社 環境展示協力
品川エコフェスティバル
(羽田空港広報連絡会)

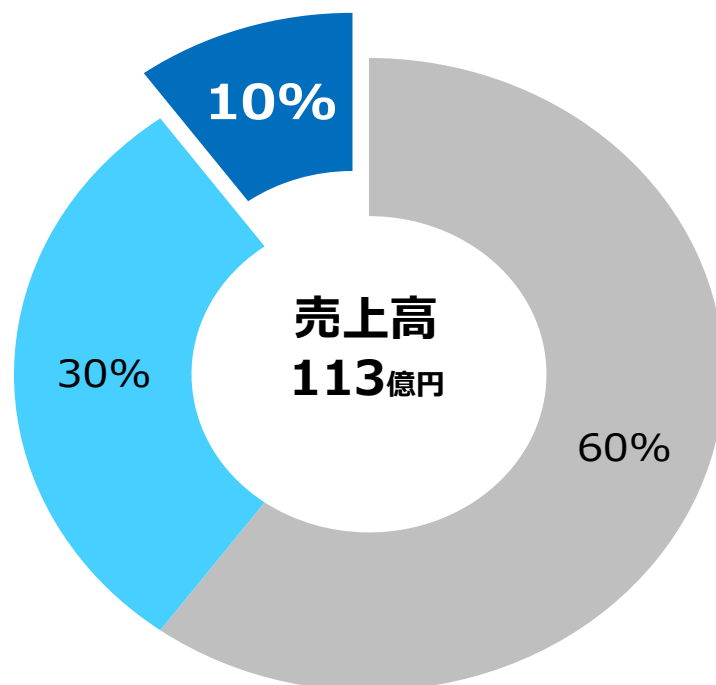
顧客別売上割合



航空産業のイベントリスクに備えるため、航空会社・空港会社などの既存顧客以外の新規ビジネス領域を開拓・強化し、FY19迄に空港外売上比率2割以上を目指していたが、足元では13%程度にとどまる計画

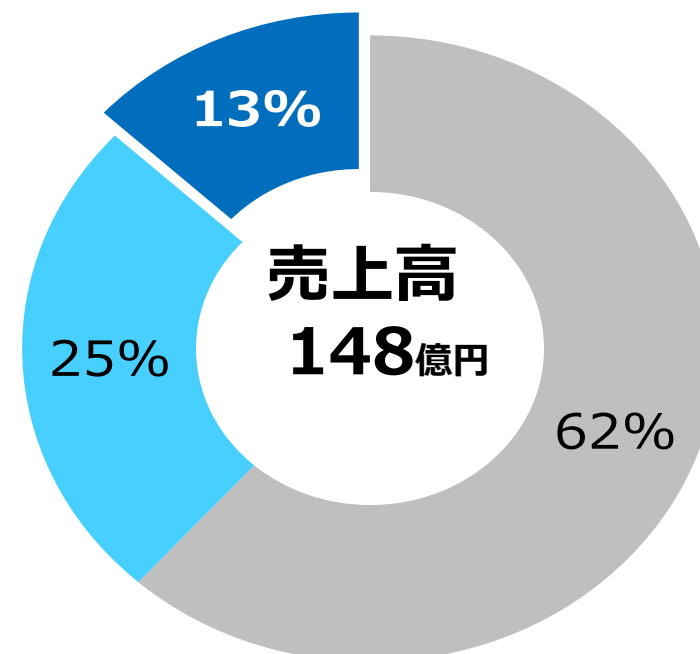
<FY13売上割合>

■ 航空会社 ■ 空港会社 ■ 航空・空港以外



<FY19売上割合>

■ 航空会社 ■ 空港会社 ■ 航空・空港以外



業務効率化の取り組み（本社、現業共通）



現状の課題

- 業務実態、スキルが可視化できておらず、業務最適化、効率化に取り組めない。
- 間接業務が肥大化し、本来行うべき業務に注力できていない。
- 支社・支店で標準工数にバラつき
- リソースを最大限活用できていない
- 一部の社員にノウハウが集中し、実運用での社員への依存度が高い

外部コンサルによる業務実態調査

※NRT、KIX、ITM

業務改善PJ事務局、業務効率化タスクチームによる効率化提案

経営強化に向けた業務最適化・効率化への取り組み

- 業務実態・スキルの可視化し、最短の標準化と総量の削減
- 既存システムの見直し、新規システム導入
- 標準工数および業務スキルに基づく運用管理
- 人的リソースの活用
- 組織の最適化

業務最適化・効率化により長時間勤務の解消・ワークライフバランスを実現するとともに、付加価値の高い業務比率を拡大し、更なる企業価値の向上を図る。

工数管理に向けた取り組み

工数管理の目的

業務最適化・効率化への取り組みによる生産性の向上

工数管理の取り組み

【現状の課題】

- 工数入力作業による間接作業増
- 感覚による業務量の把握
- 過去の経験による作業工数の妥当性

【今後】

- 工数入力作業の簡素化
- 業務量の可視化による把握
- 業務最適化、効率化の取り組みの検討

「工数管理体制」と「工数管理システム」による生産性向上サイクルの推進

【業務全体の最適化・効率化】

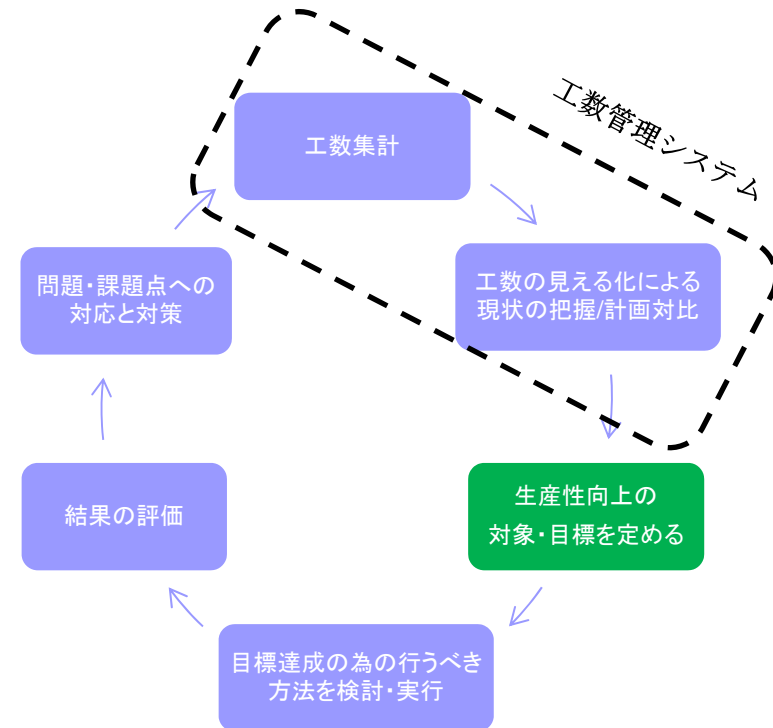
- 業務プロセスの改善や働き方の見直し

【業務平準化】

- 適正人員の管理、スキル管理による働き方の見直し

会社の成長および社員への成果還元

生産性向上サイクル



当資料に記載されている事業名は管理会計用。開示用に作成している連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備事業と施設事業をまとめて整備事業、セキュリティ事業、フードシステム事業、新規事業、GSE等販売事業をまとめて付帯事業として報告しています。

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

お問合せ先



株式会社エージーピー 経営企画部

電話: 03-3747-1638

FAX: 03-3747-0707

URL: <http://www.agpgroup.co.jp>